

# エコライフ

[環境NGO]

## かわちながの



### 会の目的

石川の源流に位置する本会は資源の浪費を防ぎ再利用、再生利用を図ることにより環境にやさしい地域循環社会を目指す。

1978(昭53)「石けんを使おう運動協議会」・2001(平13)「エコライフかわちながの」名称変更

2018(平30)年09月03日(月)

第84号

編集発行  
エコライフかわちながの  
問合せ先: 市環境政策課  
TEL: 53-1111(415)  
会長木之下純子

### 浜田化学(株)見学 一使用済み油の回収とリサイクル

河内長野市では、家庭からの生活排水対策の一環として、公民館・コミュニティセンター及び回収協力店において、廃食用油を回収しております。平成30年4月より、当市の廃食用油も浜田化学(株)へ運ばれ、リサイクルされており、見学(7月23)に行ってきました。

#### ◎リサイクルフロー

食用油(植物油・魚の油・肉の油)を1日、1灯缶で2,000缶処理し、約50t～60tの油の精製を行っています。飼料用にもリサイクルされるので工業用(燃料用油・産業用油)は取り扱っていません。

#### ◎どこから集めているの?

##### 事業系から

- ・スーパー・マーケット
- ・コンビニエンスストア
- ・食品工場
- ・居酒屋
- ・弁当屋
- ・賞味期限の切れたマーガリンバターなど

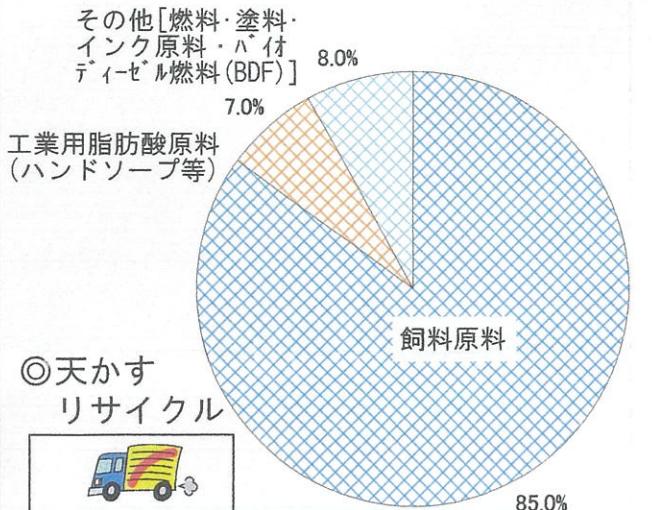
廃食用油発生量33～35万トンの内約90%以上がリサイクルされています。

##### 一般家庭から

- ・天ぷらやコロッケなどで使った油

回収の形は難しく廃食用油発生量9～11万トンの内リサイクルされるのは、0.5～1万トンで、約9～10万トンは古新聞にしみ込ませて、又、凝固剤で処理し、ごみに廃棄されています。

#### ◎浜田化学での廃食油リサイクルの用途



#### ◎天かすリサイクル



- ・天かすは、搾り装置を用いて、油脂と搾りカスに分別後、ペットフードや油脂原料にリサイクルしています。

250缶処理、ドラム缶3～4缶の飼料原料ができます。一部は四国へ、豚のエサに混ぜ使用されています。

岸 久子

①

### 見学会に参加して(一言感想)

7月23日(月)河内長野市の公民館などで市民から出された「廃食用油」を回収・リサイクルしている尼崎市の「浜田化学(株)」を訪問しました。室内で説明を受けて猛暑の中工場内も見学させて貰いました。

私が一番感心したのは、回収された様々な廃食用油を性状に応じたラインに振り分ける分別作業は機械化する事が難しく、知識と経験が豊富な熟練した従業員によって作業されており、工場が旨く稼働しているという話です。この暑い中どの担当の方にもこやかに見学の私達に挨拶までして下さり、とても素敵な会社だと思いました。

他にも食品残渣リサイクル(天かす)やバイオ燃料技術(B5燃料)など環境ビジネスの取組みもされている事を聞きました。「リサイクルの輪」の一翼を担う会社の企業努力に期待です。 村上美代子

暑い中、働いている方々が皆さん笑顔だったのが印象的でした。日本人ではなく外国人の方々でした。

天ぷら油500mlを流し台に排水したら小プール一杯分が必要だと言う事、現在天ぷら油を流し台に流す方は余り居ないのではないかかな・・・? 日々の鍋の油やお皿の油なども無視できないように思うのですが・・・。 池光 典子

「天かす」からできた飼料原料



②

廃食用油の自社回収エリアは関西を中心とした北は新潟、山梨、東京、南は四国や広島までと、回収する廃食用油は一日約50トンもあるそうです。

・廃食油のリサイクル・・・捨てれば廃棄物となり流せば水質汚染です。リサイクルすると立派な資源に生まれ変わり、又食品残渣リサイクルを飼料や肥料になるとはビックリでした。暑い中での作業に頭が下がります。 西山 咲子

廃食用油の回収とリサイクルで、浜田化学(株)の見学会、廃食油をリサイクルすることで鶏・豚の餌になったり車を動かすガソリン[バイオディーゼル燃料(BVF)]を見学させて頂きました。色々有難うございました。 達谷 照夫

リサイクルとは地道で大変な作業だと改めて思いました。工場は暑さと何とも言えない臭いで、その中で作業をされている人も汗だく。しかし、とてもいい笑顔で元気よく挨拶して下さり、思わず頭を下げた。タイ、ミャンマー、ブラジルから働きに来られ日本語もペラペラ、中には5カ国語も話される方もいるとか、日本人は勤まらないのか?!

河内長野市は廃油の回収が凄いのが分り、エコライフの方々の努力の賜物だと誇りに思いました。

フルーツフラワーパークでの食事、野菜だけのランチとても美味しかった。トマトのジェラードも思いの外美味しかったです。 林 久美子



③

従業員が毎日、過酷な下での働きを通して、廃食用油がハンドソープや家畜の飼料などに活用されている事を知りました。菜の花プロジェクトにとても興味があります。かつては、菜の花などの自然界の物から、油を採取していました。菜の花畠も、現在ではとても珍しい物になりました。このプロジェクトで自然を殖やして、クリーンエネルギーに立ち返る切っ掛け作りになれば良いと思います。

永廣 安美

私達の回収した廃食用油が、以前見学した「釜屋製油所」ではキッチリ認識できませんでした。これからは回収当番になった時は、自分の気持がうんと違うと思います。家庭でゴミとして廃棄されてしまっている廃食用油をもっと回収する努力をし、リサイクル商品を使うことが大切と……。

大村 ミヨ子

使い終わった廃食用油を回収して”精製し新たな資源と生まれ変わります。処理された廃油は畜産飼料・農業肥料・塗料BDF燃料・洗剤などの原料になります。毎日、60トンの油が精製され性状に応じたラインに振り分けられますが、これは、機械化できず知識と経験が必要な作業だそうです。環境や資源を保ちながら持続可能な世界に大切なリサイクル事業だと思いました。

石田 澄子

## 「適応塾」に参加

大阪府温暖化推進事業、温暖化「適応」の普及に向けた学習会が、8月20日ノバティホールで開催されました。

この講座の対象は、環境問題に取り組む団体や市町村職員を対象に行われました。内容は最初に花田真理子先生の講演で、

- ① 現在起きている気候変動やこれから起きる気候変動による地域や暮らしへの影響『緩和』と『適応』について、
- ② この地域における気候変動の影響とナッジ理論やSDGsの目標などを取り入れた『適応』の事例紹介がありました。

その中から **緩和** とは? ⇒ 温暖化が少しでも進まないようCO<sub>2</sub>を減らす。

**適応** とは? ⇒ 変化する気候に備え被害を回避し、和らげ、有益な機会として生かしていく。

適応塾での事例を基に現在、温暖化により発生してしまう影響に備え、被害を出来るだけ減らし、影響を受けないように『適応』する方法を学習し、今年の活動展の課題の一つにと考えています。

★詳しくは、おおさか気候変動『適応』ハンドブックに掲載されています。何部かありますので連絡頂けたらお渡しできます。木之下 純子

どうして氷が早く溶けだすの?

もう  
アカン!

大変だ!  
シロクマくんが  
困っている

④